



『ROAD TO 2020～組織委員会／スポーツマネジャーからのメッセージ～』

「国際フェンシング連盟の来日」

9月の最終週には、国際フェンシング連盟（以下「FIE」）の方々が来日し、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「2020年大会」）のフェンシングに関する会議を組織委員会と行いました。

2015年頃から年に1、2回ほど、FIEの方々が来日し、組織委員会の計画に対し、細部にわたり助言や承認を頂いています。

FIEの滞在期間中には、日本フェンシング協会の皆様にも多大なご協力を頂いています。視察や会議にご同席いただきながら、開催国を代表して、FIEや組織委員会に日本フェンシング界の歴史・現状・将来像等を共有していただいています。

FIEが来日する前はいつも、各種交渉が難航するのではと不安にかられます。しかし、来日期間中の会議や視察を通して、これまでの経緯を振り返ったり、FIEと組織委員会の二者間で譲れないことや妥協できることを確かめ合ったりすることで、最終的にはいつも合意が得られているように感じます。

今回も、組織委員会でフェンシングを担当して下さっている皆様が、FIEが来日する直前まで内部協議を重ね、資料を何度も修正しながら準備してくださいました。来日してからも、FIEとの熱いやり取りが

繰り広げられる中、真摯に対話を重ね、その場で策をご検討いただき、解決に向けて取り組んでくださいました。

FIEが帰国する際、メンバーの一人が「日本は良いチームだ」とおっしゃってくださいました。開催2年前の段階でこのようなお言葉をいただけたことは、この上ない励みになります。

2020年大会の開催まで700日をきりました。

ここからは、2020年大会に携わる全ての関係者が、最後まで同じ温度感を保ち、最高のチームワークを大会期間中に発揮できるようにすることが、最も重要になってくると思います。

これからもFIEが来日する度に、FIEや組織委員会、この先増えていくであろう関係者の皆様と、同じ方向に向かっていることを確認し合いながら、大会0（ゼロ）日まで進んでいきたいと思っています。

そしてそれと同時に、国内外のフェンシング界の飛躍的な発展を、日本フェンシング協会と共に目指します。